

学校施設の耐震化等に関する説明会

- 1 開催日時 平成22年6月1日（火）午後7時45分～午後8時25分
- 2 開催場所 京丹後市立間人中学校 美術室
- 3 出席者 米田教育長、金久政策総括監、吉岡教育次長、三田参事、
中川都市計画・建築住宅課長補佐、糸井教育総務課長、
藤村学校教育課長、水野指導主事、味田教育総務課長補佐、
服部学校教育課主任 計10名
地元出席者 30名
報 道 毎日新聞
- 4 内 容
 - (1) あいさつ（米田教育長）
 - (2) 資料説明 京丹後市立学校施設の耐震化方針（案）
 - (3) 質疑応答
- 5 要 旨
吉岡教育次長、京丹後市立学校施設の耐震化方針（案）説明。

質疑応答

(出席者)

5年程前から同じことを言っていますが、この耐震、体育館のことについて、5年程前から簡単な学校の修復作業をしていましたが、今は、そういうのもない。もし耐震補強工事に直らないとすれば、入札に出してしなくても、学校に少し予算を付けてすぐに直すような形にしてほしい。

(教育次長)

補強ではなく改築の選択肢もあるのですが、校舎は大規模な補修については、今は行う予定はありませんが、その時に一緒に合わせてやることも検討したいと考えております。

(出席者)

僕が言ってから5年は経っていますが、あれでよく生徒を5年間も体育館で運動させているなと思います。

(教育次長)

今回の計画は、工事が必要な場合は平成23年のうちに工事をする事になっています。平成23年というと来年になる分けですが、工事する場合、設計等をしましたらすぐ工事ができるということではありませんので、財源的なことも含め、早急な対応をしていきたいと考えております。

(課長)

この資料の計測不能について、先ほど少し説明させていただきましたが、その詳しいことを建設部の担当の方から説明いたします。

(参事)

間人中学校の体育館については、耐震の性能に対しての指標Is値という数値が計算でき

る資料がなくそれが計測不能と表現されています。通常建物の耐震診断をする場合、その建物の設計図面と構造計算書を用います。構造計算書とは、柱の太さを決めたり、鉄筋を何本入れるか等の設計時に作る計算書です。このような資料が間人中学校の体育館については存在していません。計測不能の理由として、耐震の診断をするにあたってそのもとなる資料がないのです。また、コンクリート強度の問題があります。実際の構造体からサンプルを抜き取って、圧縮機にかけてどのくらいの強さがあるのか、設計時に使った強度があるのかどうかを調べた結果、強度が若干低かったのです。なかでも、設計図書がないというのが一番のネックですが、柱の大きさは寸法を測れば分かりますが、中に鉄筋がどれくらい入っているのかは図面をみないと分かりません。また、体育館の屋根を支える鉄のパイプがありますが、パイプの鉄の厚みがどのくらいあるのかというのも図面がなく不明です。これらがないと耐震診断の計算ができないということでもあります。

(出席者)

改築をするとか、大規模改修はしないような話ですが改修するとすれば、この場所であれば災害の危険な場所になっていますが、そういうことを踏まえてどのようにされるのか。

(教育長)

今の体育館のある場所というのは低い所であり良くないということから、専門家をお願いして検討していただいております。できる方法で検討をしているところではありますが、未だ、どのようにしていくかという具体的なところまではできておりません。

(出席者)

「23年度から計画していきながら」行うということですが、何か、お考えがあるのですか。その場合、体育館だけでなく、校舎、教室等にも問題が出てくると思いますが、どのようにされるつもりですか。

(教育長)

教室は補強での対応としています。資料を見ていただくと、間人中学校の欄には 8,000 万円と書いてあります。こちらの方から専門的に説明させていただきますが、補強工事は主に夏休みを中心にしていく計画をしております。

(補佐)

教室棟の方ですけども、一般的に鉄骨を筋交いにしまして補強していくということになります。これを何箇所か入れて補強するのが一般的な方法であります。

(教育次長)

耐震補強の年度のことではありますが、体育館の方は先ほど説明しましたように早急な対応が必要ということで、平成 23 年度に向けて対応したいということでもあります。校舎の方は少し Is 値がいいので、平成 26 年度までの対応にしたいと考えております。

(出席者)

豊栄小学校と変わらないのですが、ベランダの手すりの間隔が今の基準に合わないのではないかと、もし合ってなかったら同じようにより安全なものに改修して頂きたい。

(補佐)

マンション、共同住宅でしたら 12 センチと間隔が決められているので、確認いたします。

(出席者)

耐震補強工事ができない又は Is 値が計測不能と診断された場合は、平成 23 年度中に準備を行い、平成 24 年度当初を目途に、耐震性の高い学校に統合することとしますと書いてあるのは、耐震の性能が足らなかつたら補強するのが当たり前のことであると思います。この表を、見てみると宇川中学校は全てが OK となったら、間人中学校にはたくさんお金がかかりますから統合して、宇川中学校へ行ってくださいということもあるのですか。

(教育長)

宇川中学校の場合は、耐震診断の結果、再配置の計画案を作り直すということになっています。去年、示させていただきました中では、平成 25 年くらいまでに間人中学校と統合するという第一案と、しばらくの間 2 校で継続する両方の案があります。今後、どういふふうになるかは現在のところ検討中であります。

(出席者)

平成 23 年度を目途に結論がでない場合であっても、京丹後市は間人中学校にお金をかけてやろうというおつもりですか。

(教育次長)

耐震診断の結果につきましては、統合するとかしないとかいうことではなく、この 3 つの中のどれかが選択肢になると捉えていただけたらと思います。どれを選ぶかということは、検討させていただきたいと思います。

(閉会 20 時 25 分)